

苺 育苗栽培管理について(中盤～②)

令和2年7月
アグリ技研(株)

項目	7月			8月			9月			10月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
作業	切離時期			苗仕上げ時期			定植時期～～活着促進期					
防除	立枯れ性(タンソ・イオウ・ウドンコ・ハダニ、アブラムシ、ヨトウ) *ウドンコには、シリカ水(1000倍)の混用											
肥料(育苗期)	苗株に味太郎 5～7g											
	①苗株にアミクエ500倍+ウルル7号500倍(灌注) ②アミクエ1000倍+ウルル7号500倍 ◎根域を活性化(根張良)											
	育苗期は、定期的に追肥、新カル元気1000倍葉面散布											
	苗揃え・立ち枯れ・花芽分化対策にPKゴー2000倍葉面											
立枯れ対策 (タンソ・エキ)	苗の充実・徒長抑制にPKゴー2000倍+クドグリーン500倍混用葉面											
	枯れる要因の把握 「根張り、N過多、水分過多、ポット内温度↑、遮光資材、育苗床環境、苗感染、管理面」 ・遮光被覆でポット内温度を抑える。 ・水分の均一(適正)に努める。 ・ポット間隔を取り通気性を良くする。 ・薬剤散布は、系統毎で使用する。手入れ作業、降雨前後に散布する。 ・葉色の薄い場合は、葉面散布や灌注で対応する。上記のアミクエ①②を参考に											
ポイント	* 苗充実のために肥料切れは起こさない様に追肥を行う。「味太郎・ウルル液肥」 * 根域や根張り(白色)は十分な対策を取る。 「アミクエ・PKゴー」 * 花芽分化確認後に液肥で適時に定植する。 「高温時には早植えを避ける」											